

第1回会合 福岡召命チーム発足説明会 議事録

日時：2019年10月13日(日曜日) 13:00～14:50

場所：大名町カトリック教会 3階会議室

参加者：有志

I. 説明

目的：カトリックの司祭、修道者(男女)、信徒の召命の促進
召命のために活動するグループを支援、協働する。
カトリック召命チーム(東京)とも連携
まず福岡教区から始め、九州全体の召命の促進を促す。

メンバー対象：カトリック信者(信徒、修道者、司祭)

活動：召命促進のための活動・・

- ・定例会(月に一度)
- ・召命を妨げる諸問題を考え、その解決を模索する
- ・召命に関する講演、シンポジウム、召命に関する霊的(祈りの)集い
- ・福岡教区報に毎回・・召命促進について・・記事を載せてもらう
 - ・召命促進がどのようになされているかに関心を持ってもらう・・
 - ・召命促進チームからの提言(信者へのすすめ)をひとこと載せてもらう。
- ・チームメンバーの勉強会・・年に一度
- ・チームメンバーと神学生の交流・・神学生にもこの会に出席を願う・・年に一度

神学院との協働

- ・小神学院、コレジオ、大神学院の召命活動の連携
- ・大神学院を使った召命活動
 - ・哲学科生による日曜学校
 - ・神学院祭・・召命を意識した集い
 - ・神学院での召命のための祈りの集い
- ・召命を受けている神学生、修道者、志願者の集いを企画：
 - ・祈り、学び、分かち合い、スポーツ
- ・若い司祭、修道者の集い・・21-22世紀に向けて奉仕者、奉獻者とのあり方を分かち合う。

召命のために活動している人たちとの連携

- ・共に祈る、召命に関する講話を行い、分かち合う。ミサ聖祭を行うなど。

教区との協働

- ・教区の召命活動に協力・・

活動をする上での留意点

- ・教区の召命活動、種々の召命促進活動と連携するが、それらの活動を妨げない。
 - ・今まで地道に活動を続けてきている会に介入、口出しをするのではなく、
 - ・それらの会と分かち合いながら、協働する・・
- ・召命活動は、主導権争いが生じやすい・・司祭、修道者を自分の側につけたい？
- ・召命活動を妨げる発言などが、召命活動を潰すことになる。
- ・召命活動は三位一体の霊によるものであることを意識しながら、神の働きに協力する意識で。

議題

1. この会の名称は〈福岡召命チーム〉とする。
 - ・「促進」は少し堅いし、追い立てられる感じを受けるので省く。
2. 会合に関して・・・その頻度は月に一度。
 - 場所は：大名町カトリック教会・・・
 - 会合時間は：14:00～16:00 とする。
3. チームメンバーとして・・・
 - *電話番号とメール番号記入のお願いする・・・議事録発送のため・・・
 - ・メンバーとなるが連絡先を知らせたくない人・・・OK、
 - *メンバーは定例会に参加して意見交換する
 - ・都合によって来られない場合・・・メンバーには議事録を送ります。
 - ・参加出来る日に参加下さい・・・毎度が望ましいが・・・
5. 召命促進に関するシンポジウムの開催について
 - ・参考：東京の場合・・・カトリック召命チーム「養成担当者の集い」
 - ・2020年4月24(金)～25(土) 場所：麴町聖イグナチオ教会
 - ・テーマ：「キリストは生きておられる」 内容：シンポジウム
 - *提案 2020年12月5日(土曜日)
 - ・待降節第二主日(12/6)・・・宣教地召命促進の日・・・前日の土曜日(12/5)はどうか
 - *開催の有無、場所、内容等は次回検討する。
 - ・この問題を持ち帰り検討することを望むために・・・
6. 召命促進についての意見交換・・・召命減少の原因は何か
 - ・若者との交流の難しさ・・・若者に合うこと、意見を聞くことができない。
 - ・韓国の教会では、小学生、中学生、高校生、大学性が教会に来る。高校生、大学生になるとカテキスタになり、小中高生に教会の教えを伝える。若者たち相互のつながりが自然にできている。若者同士の関わりから、若者たちは教会に来るし、そこに召命も生まれる。信徒の使徒職の活性化が、信仰養成となり教会の活性化につながっている。
 - ・今年の召命錬成会に5名参加。途切れることなく継続することが望ましい。神学生が青少年と触れることが大切。神学院で月一度の日曜学校があるのは面白い試みだと思う
 - ・教会の中で青年たちの役割があるのか。若者たちが集まり、信仰について語り合うことは大切。日本家庭では信仰が養成されない。家庭で祈りがあるとよいが・・・。青年たちが集まり、信仰について理解を深め、信仰の喜びを分かち合うことが大切。
 - ・「中高生わっしょい」を福岡地区でやっている。参加者は少なくなっているが、信者が協力して、若者、学生の活動、交流を支えて行くことが大切。
 - ・子供に信仰を伝えるためには親の信仰の喜びが不可欠。かつて司祭へのあこがれが召命を生んだ。司祭の生きた姿、信仰の喜びが信者の信仰を育て、親の喜びが子供の信仰と召命を育てる。司祭たちは忙しいかもしれないが教会にいて、信者をいつでも受け入れ、信者に聞き、信者の信仰を養って欲しい。
 - ・テレビで長崎教区の古巣馨神父の召命の話聞いた。小教区に信者が祈り、ロザリオを唱え、その祈りによって司祭になれたということだった。召命が活性化するために、全小教区を挙げての祈りが不可欠と思う。今の時代、誰もが自己中心となり閉鎖的である。外に向けて開き、出かけていくべきであろう。自分自身の信仰のあり方、修道者としてのあり方を自問することが必要だと思う。
 - ・大分には「信仰養成チーム」がある。青年たちが集まり、祈り、分かち合いをするとき、このチームは彼らのために「祈る」し、必要な奉仕をすることで彼らを支えている。信徒の養成の為には司祭の積極的な働きが必要である。
 - ・〈召命減少〉という言葉を知るときに、寂しく感じられる。キリスト信仰に入って頑張っているが、否定されている感じがする。青年たちもそれぞれ、自分なりの問題を抱えているので、召命に継続的に同伴する人が欲しいし、そのような同伴者が養成されるべき。
 - ・韓国では共に祈り、同時に共に食することを大切にしている。現代はネット難民が増えている。彼ら

は具体的な感覚的なつながりを持たずにいる。教会は共に祈ると同時に、具体的交わりの場、もてなしを感じる場であって欲しい。キリスト者が自分たちの「信仰の喜び」を具体的に感じ、分かち合える場を設けるべき。今しかない。まだ間に合う。今の教会の信仰は、先輩たちが神の恵みに自分のいのちを賭けて殉教したお陰である。かれらの信仰の強さが、見えない神に賭けることを教える。今のわたしたちはキリストへの信仰を持ちながら、「みことば宣教」をしない。みことばを生きる「喜び」を感じていないから。青年たちを「みことば」に生きるように招くべきである。

・洗礼を受けるにあたり、司祭やキリスト者は懇切丁寧に教え導いてくれた。今は教会の教え、信仰を学びたいと思っても、教えてくれる司祭がない。人々のニーズではなく、司祭の都合で聖書の研究会と教会の教えがなされている。教えを聞き学びたい人と司祭の都合があわず、神の恵みに触れえずに、教会から離れて行っている。もっと人々が望むときに、聖書や教会の教えに触れ得るように、聖書やカテキズムを教える機会を作って欲しい。

・一般の青年や、地域の人たちが教会や神学校に行ける機会を増やして欲しい。青年たちとキリスト者が触れ交流する機会が増えることを望む。

・たとえ韓国であっても、若者たちが教会に行くのは「信仰」を求めていくというより、楽しいことがあるから、共に食べる機会があるから。召命は軽い気持ちから始まる。真剣に考えた人がやめて行き、友に誘われ軽い気持ち入った人が司祭になるということもある。

*若者たちとの関わり

*若者たちの信仰教育・・若者によって行われる・・若者同士の信仰の喜びの分かち合い

*神学生と若者たちの関わり

*教会を挙げて、若者たちの活動を支える

*親の信仰の喜びが子供を教会に招く

*司祭の信仰の喜びがキリスト信者の信仰を養成する

*司祭が信徒のニーズに応え得るように望む。司祭の都合ではなく信徒が必要とする時に応え得る司祭。

*信者が望むときに聖書を学び、教会の教えを聞けるように、祈り、学びの機会を多くして欲しい。

*信仰養成のための司祭の積極的取り組みが、教会の召命を育てる

*信徒の召命に継続的に同伴する人の養成が必要

*教会は喜びの場、もてなしの場、祈りの場、共に食事する(恵みを分かち合う)場であって欲しい。

*教会は先輩たちの殉教によって支えられている。

*キリスト者はみことばを生き、伝える人であって欲しい。

*教会や神学院が青年や人々にもっと開かれ交流できるように望む。

次回会合：原則として第三日曜日

日時：11月17日(日) 午後14:00～16:00

12月22日(日)、1月19日(日)

・11/17；12/22；1/19の申し込みを大山が終えています。(10/13)

場所：大名町カトリック教会

内容：チームメンバーの役割・・

来年のシンポジウム開催に向けての準備・・